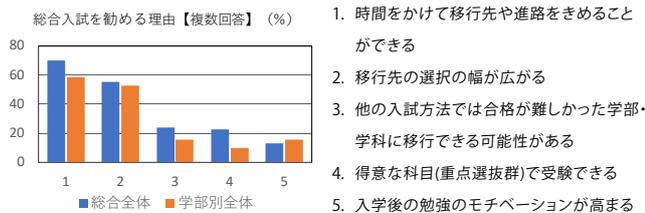




卒業年次アンケート①

本学アドミッションセンターでは、昨年度末で本学を卒業した学生の皆さん(4年制の学生は2014年入学、6年制の学生は2012年入学)を対象に「卒業年次アンケート2017」を実施しました。本稿では、このアンケート結果のうち、総合入試に関する回答の一部を紹介します。※2017年12月～2月28日実施

アンケートでは、「後輩から大学受験に関する相談を受けた場合、本学総合入試の受験を勧めますか」という質問を設けています。この質問に対し、「勧める」「どちらかといえば勧める」と回答した学生にその理由を選択(複数選択可)してもらったところ、「時間をかけて移行先や進路を決めることができる」「移行先の選択の幅が広がる」を選択する回答が例年通り多い結果となりました。



自由記述欄でも、在学中の経験から「非常に似た学問を取り扱っている学部、学科があるので、入学してからそれを見きわめることができる」「入学前の漠然としたイメージからではなく、学部・学科紹介などで各学科の研究内容がある程度知った上で希望学科を選択できる」「日本のキャリア教育に不満があります。仕事を知る前に大学の学部を選ぶのは人生の幅がせまくなる。大学に入学し、もう一度人生について考える時間が必要」など上記の点を推薦する声が多く寄せられています。さ

らに、「最初は別の学部に入るつもりだったが、話を聞いて今の学部に入り、その進路に満足している」といった、実際に移行のための情報収集を進める中で自身の新たな可能性に気付いたという声もありました。加えて、「1年の成績の学部・学科が決まるので、他の人に負けないように必死になって授業に取り組む事ができる」といった、一年次の勉強に対するモチベーションが維持できると評価する意見もありました。

一方、総合入試を「勧めない」「どちらかといえば勧めない」と回答した学生は、「希望の学部・学科に移行できるとは限らない」「大学生活が移行点の取得の目的で左右される」といった点を問題と感じているようです。自由記述欄では、総合入試のメリットを活かせていないという意見も寄せられています。「多くの場合移行先をイメージで決めるので、総合入試入学の意味を見出せないのではないか(志望が入学時と変わらない、それ以外の学部について調べないなど)」「全てのコースをバランスよく情報提供できていない」「自発的にかなり調べないと移行先の情報、特にカリキュラムやラボについての情報は得られない」「(自身の移行点に見合った移行先を選択しがちで)本当に興味のある進路を見過ごしていることが多い」といった意見は、大学での学問に触れつつ幅広い選択肢から主体的に進路を考えることができる総合入試のメリットと、豊富な情報量を有し自身の進路選択に活かせる様々な経験を積む機会が提供されている大学環境をより有効に活用してもらうための重要な検討材料となるでしょう。

次回は北大での大学生活や卒業後の進路などのアンケート結果についてお伝えします。
(立花優 / 秋山永治)

スタッフの心象 第17回「高校生活から大学生活へ」

このコーナーではLSOに寄せられる進路・修学・学習相談の内容を元に、相談現場の様子をお伝えします。

LSOにいと文理問わず様々な学部の1年生と接することができます。ここでは直接学生から生の声を聞くことができ、勉強で不安な気持ちを打ち明けてくれる学生さんもいます。入学から3か月が経ち新生は大学生活に慣れてきた頃だと思えますが、勉強量が多く授業のペースが早いとの意見を何度も聞きます。また高校では授業で教科書の内容を網羅していたのに対し、大学の授業では授業範囲の広さから重要な点や理解が困難と思われる箇所の説明に留まることが多くあり、詳細など多くの部分は学生自身で補完していかないとはいけません。このため多くの学生がこのような授業スタイルに戸惑いを感じ苦労しているように見られます。

一般的に高校教育は受け身であるのに対し、大学では率先して学んでいく必要があり、主体的な学習意識に根本から切り替えないといけません。このような考え方は一般社会でも同

様で、各個人の問題解決能力が必要とされます。即ち、自ら必要な情報を集め調査分析し、目的を果たしていくこととなります。LSOの役割として我々スタッフは、学生に分からない問題を教えるのと同時に、本人の将来を見据え、学生自ら分からない問題を明確化し対処する能力が備わるよう指導していく必要があると感じています。その取り組みの一つとして、学習サポート時に新たに質問シートを導入し、問題を的確に捉える試みを検討しています。問題の明確化は解決への糸口ですので、是非身に着けてもらいたいと願っています。

理想を言えば、学生が独り立ちしLSOの利用者が無くなることです。学生が来なくなってしまうのは少し寂しい気持ちになりますが、学生の成長を見届け独り立ちしていく姿を見られることが、何よりも幸せなことです。
(秋山永治)



「よく遊んで、よく学ぶ」

アカデミック・アドバイザー
教育学研究院 准教授

駒川 智子



こんにちは。私は教育学部の教員で、研究室は「職業能力形成論」といいます。北海道大学の教育学部は、人間の成長・発達を様々な研究領域から学ぶところに特徴がありますが、私は社会科学の領域で、企業の人材育成・キャリア形成を社会的文化的な男女差というジェンダーの視角から研究・教育しています。

私は兵庫県神戸市の出身です。高校生の頃は、親元を離れて早く自立したいと思っていました。親からの期待が無言の圧力に感じられ、息苦しかったのでしょう。ですが親から「女の子が浪人はダメ」「女の子なのだから家から通える範囲で」と言われ、神戸市内にある甲南大学の経済学部に進学しました。

実家はテントを扱った商売（例えばカフェテラスにある日除け用テントの製造・設営など）をしており、私は大学生の頃から将来は起業したいと思っていました。でもどんな仕事をしたいのかは、まったくわかりませんでした。そこで大学生だからできることをたくさんして、自分の興味関心を広げ、人的ネットワークを拡大することから始めることにしました。

大学ではテニスサークルに入り、学費を稼ぐためにアルバイトを始めました。デパートの販売員では接客業務の基本をしつけられました。生田神社での巫女としてのお務めは、結

婚式という大切な場で失敗は絶対に許されないことを学びました。オリックス・ブルーウェーブ（現オリックス・バファローズ）の球場での指定席のお客様の席案内はとても楽しく、その後アメリカのメジャーリーグで活躍するイチロー選手が鈴木一郎の名前で出場していました。稼いだアルバイト代を金融商品で運用し、合間にドイツ語会話教室に通い、アルトサックスを習い、毎年春休みには海外旅行に行っていました。

ここまで読まれた方は気付かれたかと思いますが、私は学問にまったく期待していませんでした。そんな私が学問の力に目を開かされたのは、大学3年生の前期に受講した経済学部の専門科目「社会政策」がきっかけです。社会政策とは労働問題と社会福祉から構成された学問で、職種にもよりますが公務員の試験科目のひとつです。授業は企業の雇用管理を分析的に提示し、男性労働者が自ら仕事に邁進する一方で、女性労働者が早期退職に誘われるメカニズムを明らかにするものでした。この構造が男性の過労死を招きかねない働き過ぎと、女性の低い職位や賃金をもたらしているのだとわかった時、「この問題を知らずに社会に出るわけにはいかない」という想いに駆られました。

もうひとつの転機は、バブル崩壊による女子学生の就職難を目の当たりにしたことです。「これからは女性の時代」と言われてきたのに、優秀な女性たちが内定先を得られないことに怒りが沸きあがりました。この問題が生み出される理由を説明してくれたのは、女性の生き難さに名前をつけ、個人的経験と思われる事柄が社会的問題であることを示してきたフェミニズムでした。

このふたつの経験は、私に「男性だから、女性だからというのではなく、その人らしく生きられる社会にしたい」という強い想いを抱かせました。学問と現実を結ぶふたつの出来事を通じて、起業は個人的に勝ち抜くだけだと理解した私は、大学院に進学し、研究者になり、男女を区別して成り立つ社会を変えたいと考えるようになりました。理不尽な事柄に対する怒りが、私の進路を決定付けたのです。

せっかくの大学時代ですから、たくさん遊んで、たくさん学んでください。楽しいこと、嬉しいこと、不思議なこと、腹立たしいこと、いろいろあるでしょう。私の経験からですが、そこで培われた感情や感性が、人生で重大な判断をする際の基準になると思います。

メンバー紹介

国立天文台から秋山永治さん、京都産業大学から山津直樹さんのお二人が新メンバーになりました。数学、物理学、地球惑星科学に関する学習サポートの他、履修相談も担当していきます。

LSOメンバー			スタッフ(特定専門職員)		
室長			立花 優	北大文学研究科	比較政治学
細川 敏幸	高等教育推進機構 教授	高等教育	城谷 大	阪大理学院	無機化学
アカデミック・アドバイザー			秋山 永治*	茨城大理工学研究所	天体物理学
八若 保孝	歯学研究院 教授	小児・障害者歯科学	山津 直樹*	九大理学院	素粒子物理学
喜多村 晃	理学研究院 教授	光化学	事務補助員	石手洗 千春	
駒川 智子	教育学研究院 准教授	労働社会学			

*2018年4月より着任

編集後記

LSOでは4月からスタッフが2名入れ替わり、ホームページもリニューアルして見やすくなりました。心機一転、少しでも学生の皆さんの力になれるよう精一杯頑張っていきます。履修や学習サポートに関するお知らせをTwitterで発信していますので是非見て下さい。

(秋山永治)



ラーニングサポート室

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 E-mail: lso@high.hokudai.ac.jp

北海道大学高等教育推進機構2階 URL: <https://lso.high.hokudai.ac.jp/>

電話: 011-706-7526 Twitter: https://twitter.com/lso_hokudai

次号は9月発行予定です